発行月：平成21年7月　　家族新聞　　第70号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL0561-51-2878

この事業は、愛・地球博開催地域社会貢献活動基金の助成金を受けています。

「シバさんは、こういうひと好きですか」「だれでも好きでしょう」「こういうひと見たことがありますか」「あるんじゃないですか。すぐれた少女なら少女期に瞬間ながら一度はこういう表情をするのではないでしょうか。」

司馬遼太郎『街道をゆく　奈良散歩』より

▲平常心を失うな　流れる水はくさらない。

武田信玄の四女松姫

信長の嫡男奇妙丸（信忠）の婚約を承知したのは永禄十年織田徳川連合に壊滅させられ八王子へ落ちのび信松尼と名乗った。家康によって信松院に草庵を建ててもらい手厚く保護され五十六歳の生涯を終えた。

信松院を訪れると、その伽藍の立派さにおどろかされるが、それは現住職のしからしめた成果であって、それまではいたって質素な建物だった。

「安宅船」三十五分の一縮尺模型がある。これが貴重な物。

甦る日本書紀　今人気ファン殺到

国宝

興福寺

阿修羅像

身長153.4センチ　台座から左右に広げた手先までを測っても
体重14.85キロ
高さ175.5センチ

天平六（七三四）年光明皇后が西金堂を建立した際に安置された八部衆像のひとつ

その表情を司馬遼太郎は「無垢の困惑」と名づけ「思いを決した少女の顔である」としている。

阿修羅は仏教では闘争神あるいは一種の鬼神とされるがこの乾漆像にはそうした気配がなくむしろ穏やかな

阿修羅は東大寺の広目天と並んで司馬が最も愛した奈良の仏像だった。

大阪府太子町叡福寺境内

聖徳太子御廟そばには宗祖たちの参詣の記念堂や石碑もある。太子自ら墓所と定めた磯長は飛鳥斑鳩とを結ぶ三角形の

一方の極を形作る

空海、新鸞、日蓮

日本仏教を中興した

偉大なる宗祖たちは

斯地　みささぎを訪れた。

大化改新の幕開けの舞台ともなった伝飛鳥板蓋宮跡

ここは蘇我本宗が滅ぼされた惨劇の場としても名高い。